

小樽商科大学は商学部だけの単科大学であり、私は学内共同利用施設である言語センターに所属し、学部においては英語、英語教員養成科目およびゼミを、また、大学院では異文化コミュニケーションの科目を担当しています。

ゼミは異文化コミュニケーションをテーマとし、英語のコミュニケーション能力の養成も目標に入れながら、特に、日米文化の特質に焦点をあて、自文化との比較から異文化コミュニケーション論を考察しております。学部のゼミは3年生から始まり、4年生で卒論を書き終了します。人数は10名程度で始まりますが、途中、3年の後期から留学生も参加し、時には20名程に膨れ上がる場合もあります。これは文部科学省の政策である短期留学推進制度により発足した短期留学プログラムの協力科目として私のゼミを登録し、各国の留学生を受け入れているので、3年次の後期から4年次の前期が終わるまで人数が増えるわけです。また、ゼミ活動における使用言語は主として英語を使っています。

短期留学プログラムの協力科目として登録したのが平成15年からで、これまでにアメリカ、中国、ロシア、フランス、ニュージーランド、ドイツ、アイスランド、イギリスなど数か国からの留学生が私のゼミを履修しました。例年、留学生は2、3名程で、現在はアメリカ、イギリス、ロシアからの留学生が3名履修しています。ここで、ゼミの内容説明に入る前に、少しこの短期留学プログラムについて説明します。

●小樽商科大学の短期留学プログラム

本学では、平成11年秋から経

済・ビジネスの科目を中心とする交換留学生向けの短期留学プログラムが実施されてきました。このプログラムは、協定大学からの学生を対象に、一定人数の学生を1年間受け入れるプログラムで、英語で授業を受けられるのが特徴です。取得した単位は、各協定大学が定める方法に従い母国で在籍している大学において単位認定されます。商学・経済に興味のある学生のみならず、日本語・日本文化に興味を抱く学生に向けたコース内容となっています。本学との協

します。

教材はキング牧師の演説、“I Have a Dream”を使い、まず、1950年代のアメリカ市民権運動について映像を通して学習し、歴史的背景と共に、演説の内容を確認します。その後、オーラルインタープリテーション手法により英語のリズムをつかみ、前期終了前には学生が1人ずつ壇上でこの演説の一部をレシテーションします。

3年次後期からは留学生も交え、日本文化と自国文化との比較をテーマ別にパワーポイントで発表し

私の研究室
私のゼミ 9

Takai Osamu
高井 収
小樽商科大学



定校はアメリカ、中国、ニュージーランドなど12か国17大学にのぼり、毎年、学生の派遣と受け入れの交換計画が活発に実施されております。

●ゼミの内容

ゼミは2年間にわたり、教科書(Larry A. Samovar 著 *Communication Between Cultures*)に基づき異文化コミュニケーションの基礎知識を身につけることに加え、英語のコミュニケーション能力を養成します。ゼミ活動は週1回、2時間半を2つに分け、教科書の発表は後半部分で行います。ゼミですが、留学生の入る前と後ではその活動の種類が変わります。

まず、3年次の前期は日本人学生のみ参加で、4月から8月にかけて授業前半は英語のオーラルコミュニケーション能力を再訓練

てゆきます。テーマは教育、宗教、スポーツ、音楽、食文化に別れ、グループ活動を通してリサーチし、毎週1つのグループが発表します。

留学生は1年間で帰国しますが、4年次の前期終了前にそれまで発表を通してリサーチしてきたテーマで論文を作成します。日本人学生は卒業論文を4年次後期が終了する前に仕上げることになります。

普段あまり英語を使う機会のない日本人学生にとって、ゼミに留学生が参加し、一緒にグループ活動や討論をしてゆくことは英語のコミュニケーション能力を養成すると同時に、非常に貴重な異文化体験であると感じられます。学生も異文化理解には自文化の知識が求められ、自己のアイデンティティが如何に大切かを学んでいるようです。(小樽商科大学教授)